

教科（ 保健体育 ） 科目（ 体 育 ） 学年（ 2 ） 単位数（ 3 ）

類型（ 共通 ） ・ 文 ・ 理 ） 履修規定（ 必修 ） ・ 選択 ）

学習の目標		使用する主な教材					
各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。		・教科書『現代高等保健体育』 大修館書店 ・その他『現代高等保健体育ノート』 大修館書店					
期	月	学 習 内 容	学習の具体的内容とねらい	主な評価の観点			
				①	②	③	④
一 学 期	4	オリエンテーション 体づくり運動	・授業の内容、方法、評価などについて理解する。	◎		○	
	5	ソフトボール（男子 A 必修）	・集団としての個々の役割やルールの厳守、安全管理の必要性を理解するとともに、その実践を行う。		○		◎
	6	ハンドボール（男子 B 選択） 水泳（男女必修、6月中旬～7月中旬）	・キャッチボールやバッティングなどの個人技能を身に付け協力して練習やゲームを行う。（ソフトボール）	○		◎	
	7	バスケットボール（男女 B 選択）	・基本的集団的技能を身に付けチームで協力して練習やゲームを行う。（ハンドボール）		◎	○	
二 学 期	8	テニス（女子 A 必修） 卓球（女子 B 選択）	・個人・集団技能を身に付け、協力して練習やゲームを行う。（バスケットボール）		○	◎	
	9	ダンス（女子 AB 必修）	・サーブ、グランドストロークなど基本的な個人技能を身に付ける。（テニス）		○	◎	○
	10	※A と B が入れ替わる。	・サーブ、ストロークなど個人技能を身に付け、ダブルスゲームを行う。（卓球）		○	◎	
	11	柔道（男子 B 必修）	・基本的動作とリズム感に磨きをかけ、班で創意工夫し独自のダンスを創作する。（ダンス）		○	◎	
	12	体育理論	・立ち技、寝技の基本動作を身に付け、安全に留意し練習や試合を行う。（柔道）	○	◎		
三 学 期	1	持久走	・クロール、平泳ぎなど基本的泳法を理解し、スムーズに泳げる力を身に付ける。（水泳）	○		◎	
	2 3		・安全に留意し心身の鍛練を図り、自己の限界に挑戦する。（持久走）	○		◎	
評価の方法		・出席状況 ・①「関心・意欲・態度」は、授業の導入で行われる北高体操・補強・集団走での取組を中心に声の大きさ、他者との積極的な関わり準備・後片付けなどの姿勢を評価する。 ・②「思考・判断」は、それぞれの種目の特性をよく考え、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動を実践し自己の課題に応じた取組ができているか評価する。 ・③「技能」は運動の合理的な実践を通して、運動の特性に応じた段階的な技能を身に付けているか評価する。 ・④「知識・理解」は運動の合理的、計画的な実践に関する具体的な事項及び生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する理論について理解しているか評価する。 以上の4つの観点で総合的に評価する。					
備 考		男子 A グループ ソフトボール（必修・3 単位） B グループ バスケットボールまたはハンドボール（選択・2 単位）、 柔道（必修・1 単位） 女子 A グループ テニス（必修・2 単位）、ダンス（必修・1 単位） B グループ バスケットボールまたは卓球（選択・2 単位）、ダンス（必修・1 単位） ※水泳・持久走は、男女必修					